

4. 履修体系図

看護学科 基礎教育科目「S-BASIC」 体系図

※表中の数字は単位数を表し、2 は必修科目、② は選択科目です。

科目群の学習・到達目標		1 年	2 年	3 年	4 年		
■知識・理解として身に付ける能力 多文化や異文化に関する知識の理解と人類の文化や社会と自然に関する知識について理解します。							
人間の理解	学習目標 社会生活を送るうえで身に付けておくべき人間や人間理解に関する基本的な知識と複合的な視点養うとともに、豊かな人間性を涵養します。	人間心理と人間行動 ①	健康管理と身体活動 ①	スポーツと運動科学 ①	日本社会と歴史文化 ①	現代家族と育児介護 ①	生命科学と物理化学 ①
社会の理解	学習目標 社会的に重要な特定の主題や現代社会が直面する基本的な諸課題に関する知識と総合的に判断し対処する能力を養います。	情報社会とデータサイエンス ①	法律社会と法律問題 ①	日本国家と政治行政 ①	現代医療と生命倫理 ①	福祉政策と福祉制度 ①	経済構造と経済政策 ①
国際の理解	学習目標 国際社会で生じている諸課題に対する認識と現代国際事情について総合的に理解し、国際協調に貢献できる国際教養を身に付けます。	国際社会と国際問題 ①	世界動向と国際貢献 ①	国際平和と安全保障 ①	地球環境と環境対策 ①	国際関係と日本外交 ①	世界宗教と民族問題 ①
■汎用的技能として身に付ける能力 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能として、コミュニケーション・スキル、数量的スキル、論理的思考力、情報リテラシー、問題解決力を習得します。							
コミュニケーション・スキル (英語)	学習目標 日本語を用いて自分の意思、思想、感情などを相手に伝達するための実践的な方法を学びます。						
	到達目標 文章の読解と分析に関する基本的な能力を身に付けます。 作文や論文など文章作成に関する基本的な能力を身に付けます。 発表や討論をするための基本的な方法論を身に付けます。 企画や立案に関する能力及び独創的な発想能力を身に付けます。 提案のための説得力や自己表現法に関する能力を身に付けます。	表現技法Ⅰ(読解・分析) 1	表現技法Ⅱ(作文・論文) 1	表現技法Ⅲ(発表・討論) 1	表現技法Ⅳ(企画・立案) ①	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション) ①	
	学習目標 英語による日常生活における基本的な会話と文章によるコミュニケーション能力を養います。						
	到達目標 日常生活における英会話を中心とする基本的な能力を身に付けます。 日常生活における英会話を中心とする応用的な能力を身に付けます。 日常生活における英会話を中心とする実践的な能力を身に付けます。 ディベートやディスカッションなど実践的な運用能力を身に付けます。	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎) 1	コミュニケーション英語Ⅱ(応用) 1	コミュニケーション英語Ⅲ(実践) 1	コミュニケーション英語Ⅳ(実践) ①		
情報リテラシー (論理的思考力)	学習目標 情報通信技術を用いて、情報を収集、分析、判断し、効果的に活用できる能力を養成します。 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる能力を養成します。						
	到達目標 コンピュータとソフトウェアの利用方法に関する能力を身に付けます。 インターネットを利用したの情報検索法に関する能力を身に付けます。 情報収集、加工、廃棄などの情報管理法に関する能力を身に付けます。 統計資料などのデータの見方、要約方法、分析手法に関する能力を身に付けます。 情報の定量的、定性的な分析手法と分析結果の表現に関する能力を身に付けます。	情報リテラシー 1	データリテラシー 1	統計分析法 ①			
問題解決力	学習目標 問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を解決できる能力を養成します。						
	到達目標 問題の発見方法と課題や対策の設定方法に関する能力を身に付けます。					問題解決法 1	
■態度・志向性として身に付ける能力 社会人として求められる態度や志向性として、自己管理力、倫理観、チームワーク、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を習得します。							
自己管理力・倫理観	学習目標 自らを律して行動でき、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動することができる態度を養成します。	自己管理と社会規範 1					
チームワーク・リーダーシップ	学習目標 他者と協調・協働して行動できる、また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる態度を養成します。						
	到達目標 多くの人々をまとめて率いて、目的や方向に向かって教え導く能力を身に付けます。 物事に進んで取り組むことができ、自ら目的を設定し、確実に行動することができる能力を身に付けます。	チームワークとリーダーシップ 1			他者理解と信頼関係 1		
市民としての社会的責任	学習目標 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養成します。						
	到達目標 社会貢献の基本的意義と地域活動の社会的役割について理解し、社会貢献への参画意識を身に付けます。 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む姿勢を身に付けます。				地域活動と社会貢献 1		
生涯学習力	学習目標 職業観を有し、卒業後も自律・自立して学習できる態度を養成します。						
	到達目標 将来への目的意識や自ら設定した目標に対して、それを行動に移し、粘り強く取り組む姿勢を身に付けます。	初年次セミナー(学習の目的と技術) 1	利他共生 1	社会的・職業的自立Ⅰ 1		社会的・職業的自立Ⅱ 1	
■統合的な学習経験と創造的思考力として身に付ける能力 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を養成します。							
	学習目標 これまでに獲得した知識・技能・態度等を活用し、課題を解決する能力を養成します。						
	到達目標 自らが立てた課題の解決にむけた方法の検討と選択をすることができる能力を身に付けます。 資料収集や分析報告、意見交換などを通じて、自己の考えを展開する能力を身に付けます。						創造思考法 1

看護学科 専門教育科目 体系図		1 年		2 年		3 年		4 年	
科目群の学習・到達目標		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
■人間関係の理解 看護職としてすべての人とのかわりの基本となる人間関係やコミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を学ぶ。		人間関係学 2	対人関係援助Ⅱ 1						
		対人関係援助Ⅰ 2							
■健康支援と社会保障 ★疫学と統計 公衆衛生看護活動で用いられる保健統計について、その作成方法・利用方法・近年の動向・統計学的解析の基礎・文獻調査法について理解できるようにする。 ★健康支援と社会保障制度 社会における組織的な働きかけにより、身体的・精神的機能を増進させる。公衆衛生学の基礎について理解をし、社会保障制度の現状と課題、さらには保健福祉領域での支援技術論の基礎を理解できるようにする。			社会福祉概論 1			保健医療統計学 2			
			公衆衛生学 1			地域福祉論 2			
					※疫学 ②				
					保健医療福祉行政論Ⅰ 1				
					※保健医療福祉行政論Ⅱ ②				
								※日本国憲法 ②	
■人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進 人体の構造と機能・疾病の成り立ちについて医学やコメディカル（医学と協業する専門職）分野における基礎である解剖・生理・免疫について理解し、さらに人体の感覚器・消化器・呼吸器・循環器・神経系・脳血管系・腎・泌尿器系の構造と機能について理解する。		生化学 2							
		人体の構造と機能Ⅰ 1	人体の構造と機能Ⅲ 1						
		人体の構造と機能Ⅱ 1	人体の構造と機能Ⅳ 1						
		病態学 (医学概論・病理学・産婦人科) 2							
						臨床病態学Ⅰ (循環器・放射線・麻酔・眼科) 1	臨床病態学Ⅲ (神経・代謝と内分泌・耳鼻科) 1		
						臨床病態学Ⅱ (血液・呼吸器内科・呼吸器外科・整形外科・リハビリテーション概論) 1	臨床病態学Ⅳ (腎臓・消化器・口腔外科) 1		
						臨床薬理学 2			
			臨床微生物学と免疫学 2						
■基礎看護学 ・看護の対象であるその人が健康的な日常生活を支障なくおくれるように、健康の保持・増進、疾病を予防し、健康の回復と苦痛の緩和を目指すことを理解し、看護実践ができるための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 ・看護の核となる「人間」「健康」「環境」「看護」の概念を理解し、看護独自の機能と役割について学び、「看護とは何か」を考え、表現できるようにする。 ・対象者の個別的なニーズに着目し、人それぞれ異なることについて理解し、エビデンスに基づいたケア方法とは何かを明らかにする。		看護学入門 2			生活行動援助論 1				
			診断・治療援助論 2			看護過程Ⅰ（講義） 1	看護過程Ⅱ（演習） 1		
						フィジカルアセスメント 1			
								基礎看護学演習 1	
								看護倫理 1	
								看護管理論 1	
■地域・在宅看護論 ・在宅看護の歴史、概念及び特徴を理解し、療養生活支援の方法を修得するとともに、在宅看護の役割と今後の課題を明らかにする。 ・疾病や障害を持ちながら在宅療養している個人とその家族を理解し、生活の場で看護を実践する基本的能力を養う。 ・在宅ケアにおける他職種との連携や協働の実際及びその重要性を理解する。					健康生活支援論 2	在宅看護論Ⅰ 2	在宅看護論Ⅱ 2		
■成人看護学 ・成人期にある対象の看護をとおして、その特徴を理解し、あらゆる健康レベルの対象に対し看護が実践できる基礎的能力を養う。 ・対象の個別的な身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 ・対象の看護に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、健康上の看護問題を解決するために必要な方法と判断能力を養う。 ・急性期、慢性期における対象の特性と適切な援助を学ぶ。 ・継続看護の必要性を理解し、対象及び家族への適切な生活指導について学ぶ。 ・保健医療チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。									
			成人看護学概論 2			成人看護援助論Ⅰ (慢性期・がん緩和ケア) 2	成人看護援助論Ⅱ (急性期・リハビリテーションケア) 2		
■老年看護学 ・老年期にある対象の看護をとおして、その特徴を理解し、あらゆる健康レベルの対象への看護が実践できる基礎的能力を養う。 ・対象の個別的な身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 ・対象の看護に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、健康上の看護問題を解決するために必要な方法と判断能力を養う。 ・高齢者の特性を踏まえた援助を学ぶ。また老年期に関連するケアの関連施設やケア実践の場について理解する。 ・高齢者をとりまく保健、医療、福祉の現状と問題を理解し、それらの関連機関における看護師の役割を学ぶ。 ・保健医療チームの一員としての看護師の役割を学ぶ。									
						老年看護学概論 1	老年看護援助論Ⅰ (高齢者生活支援) 1	老年看護援助論Ⅱ (高齢者健康支援) 2	

看護学科 専門教育科目 体系図		1 年		2 年		3 年		4 年	
科目群の学習・到達目標		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
■小児看護学 ・健康及び健康障害をもつ子供とその家族を理解し、対象に応じた最善の利益を守る看護を実践するための基本的態度を養う。 ・子供は、成長発達の上において、個性ある一人の存在であることを理解できる。 ・健康障害をもつ子供とその家族とコミュニケーション・関係を持つ。 ・受け持ち患児の成長、発達段階を把握し、子供に応じた日常生活援助ができる。 ・受け持ち患児に応じた看護援助が計画でき、看護計画に基づき、看護援助を実践し評価できる。 ・子供の日常生活、成長、発達、生活（入院）環境に応じた感染防止、安全の確保、事故防止ができる。				小児看護学概論 1	小児看護援助論Ⅰ (アセスメント・対応看護)	小児看護援助論Ⅱ (臨床看護実践)	2		
■母性看護学 ・母性及び父性の特性を知り、健康が守られる仕組みと母性看護活動について学び、性と生殖にかかわる健康増進と健康問題について理解する。 ・妊娠、分娩、産褥期にある女性とその胎児・新生児及び家族の特徴を理解し、個別的な看護の必要性を判断しながら看護過程を展開する基礎的能力を養う。				母性看護学概論 1	母性看護援助論Ⅰ (ライフサイクル・妊娠)	母性看護援助論Ⅱ (分娩・産褥・新生児)	2		
■精神看護学 ・病院及び地域で生活する精神障害者を理解し、看護が実践できる基礎的能力を修得する。 ・精神疾患及び患者をとりまく治療的環境について理解できる。 ・患者の情報を収集、分析、解釈、統合し、疾患に共通する援助方法及び個別的な援助方法を実践できる。 ・患者のニーズや優先度を踏まえてケアプランを立案し、実施、評価、修正という看護過程を展開できる。 ・患者－看護関係の特徴を理解し、自己洞察を深めつつ、治療的なコミュニケーション技術を活用できる。 ・精神疾患をもつ人のケアの場を理解し、歴史的背景及び人権擁護について理解する。		精神看護学概論 1		精神看護援助論Ⅰ (精神保健看護)	1	精神看護援助論Ⅱ (精神保健看護実践)	2		
■公衆衛生看護学 公衆衛生看護学の理念及び基礎となる概念を理解し、地域に暮らす人々を対象とした疾病予防と健康増進をめざして展開されるヘルスプロモーション活動の概要を理解する。また、その活動を推進する保健師の役割や機能を理解する。 ・公衆衛生看護活動の展開方法及び個人・家族・集団・地域の健康課題を解決するための知識・技術を修得する。 ・公衆衛生看護活動における社会資源の開発、利用、調整と保健活動計画に対する評価活動、地域の関係者や住民との連携の意義・重要性を理解する。 ・産業保健及び学校保健の意義・重要性を理解し、地域保健活動に携わる看護職の役割・機能を学ぶ。				公衆衛生看護学概論 2	※公衆衛生看護展開論Ⅰ ② ※公衆衛生看護活動論 ②	※公衆衛生看護展開論Ⅱ ② ※産業保健活動論 ① ※学校保健活動論 ①		※公衆衛生看護管理論 ①	
■臨床実習 既習の知識・技術を統合し、積極的に実習に臨むことを通して、それぞれの領域における実習目標を達成する。		基礎看護学実習Ⅰ (看護を知る)	1	基礎看護学実習Ⅱ (地域で暮らす人々との共生)	2	基礎看護学実習Ⅲ (看護職者に学ぶ共生)	1	基礎看護学実習Ⅳ (看護実践場面における共生)	2
								成人看護学実習 4 老年看護学実習 2 母性・小児看護学実習 4 精神看護学実習 2 在宅看護学実習 2 ※公衆衛生看護基礎実習 ②	
								※公衆衛生看護展開実習 ①	
								統合実習 3	
■専門職連携の基礎 地域に生活する人々の複雑多様化したニーズにこたえ、生活の質を維持・向上するために、保健・医療・福祉の専門家が連携し、支援内容を統合した援助計画立案について理解する。		保健医療と福祉の連携Ⅰ (チーム医療)	1					保健医療と福祉の連携Ⅱ (多職種連携)	1
■看護を発展させる基礎 ・興味・関心のある看護分野、あるいはより深めたい特別な状況下にある対象に対して、あるいはチーム医療の一員としての看護実践能力を高める。 ・保健・福祉・医療の包括的な観点から看護の専門性・個性性を考察できる。 ・自己の看護観を明確にすることができる。 ・将来における自分自身の看護の方向性を探求することができる。								研究方法論 1	
								卒業研究 1 エンドオブライフケア ①	
								※国際看護論 ① ※災害看護 ① 仏教と看護 1	